新撰六葉鼎帙
明治歳時記 秋 中

中村俊定文庫
文庫 18
919
2

新選
俳諧 明治歳時記栞草巻之中

東京　小築庵春湖 閲
仝　香楠居幹雄 編
仝　佳峯園等栽 校
大阪　黄華庵南齢 校

○去嫌之式

天象 三句去　ちゝはゝのはゝて二句去なり月と月と六句去日と日と三句去星と星六句去
風體 二句去　降物 三句去　ちゝはゝのはゝて二句去なり雨と雨と六句去なり雪と雪と六句去なり
ちゝはゝとも月雪ちゝはゝとも雨雪ちゝはゝとも三句去ちゝ
山類 三句去　聳物 三句去　ちゝはゝのはゝて二句去なり雨と雨と六句去なり
名所 三句去　水邊 三句去

春 五句去　夏 五句去　秋 五句去
冬 五句去　夜分 三句去　神祇 三句去
釋教 三句去　人倫 二句去　動物 三句去 生類とも
魚と鳥虫と木ゝとは まゝば二句去なり　植物 三句去 草と木と花のはまゝば二句去なり

居所 三白去　衣類 三白去　金類 三白去

飲食 飲物と食物と　品のはりて二白去　旅作 三白去　宮去とも三白去なり　面をうつしても任無つくり

述懷 三白去

○天象

天 大虛　虛空　大圓　穹窿　宮窿　半天　日　太陽　金烏　蒼天　昊天　昊天　玄天　陽烏　火鳥

靈耀　晨光　斜陽　金波　銀盤　氷輪　氷輪　玉兎　玉兎　常娥　嫦娥　桂男

映　返照　玉蟾　玄兎

さらし男

星 少斗　少辰　流星　南斗　二十八宿　彗星

月蝕

天河 銀河　銀河　星河　星河　天津

絳河　斜漢　星漢　天の河　銀色の河　銀色の河　銀河　銀河　銀

月　星

星月夜　名月乃対ハ英語ヨリ訳名ノ名称ナリ　銀河　明星　星ヲ行ク

七夕　眺入　宵　添更　櫛火　行燈　橋書　橋雲　曙

暗　晩　暗　行燈　紙燭

燭台　燈籠　挑灯　燭灯　紙燭

手燭　燈明　燭　送火　清水焼火　紙燭

炬　移燈　移川　狐火　辻灯

狐多賀　日待　覗物　住吉の市　高の市ともいふ

除狐　大三十日　追儺　鬼やらひともいふ　牧　嵐

蓐多　妖怪　幽霊　枕　牧帳

衣く　茅の輪　蟬　床　屏風　假寝　夢

寝言　鼾　初鶏　夜長　握火

暁　東雲　花火　烟火　螢

漁火　蒲団　床　蝙蝠

○非夜分詞

電　眩出　今日の月　翌の月　来の月　来夜の月　来年の月

青空　明そけき　名月　有明

入お　ちらち火　芦火　清灯　鐘

祐　夢幻　夢現　虫の声　泊

一夜酒

○山類之詞　三百去　三百づく　百そそもまてる

山　峯　嶽　岳　嶺　峠　高根

尾上へ　峴　岫　峡　麓

坂　九折羊腸　烟　関　山ある所ある　名所坂　関所　白川　函根　ふ破

島　樣　瀑布　瀑　峯電　山焼

山脈　山ち　葛城　岩穴　久米のやけし　岡

泡沫（パッセ）とも関（セキ）あり　山路の用ゐ方山路へ出る

嶮（カケ）　石間高嶮　泡沫水　水のすゝ行るさまをいふ

○非山類詞

越路（フシチ）　吉野（ヨシノ）　三島（ミシマ）　裾野（スソノ）　岩屋（イハヤ）

氷室（ヒムロ）　渡海鳥（アハヂシマ）　竹門（タツタ）　島国（シマクニ）　葦の根（ヨモギ）

仙人（セン）　杣人（ソマ）　猟人（カリ）　山雀（トリ）　山賊（ハト）

山梨（ナシ）　山賊（カツ）　山桃（ヤマモモ）　猿（マシラ）

○水邊詞　三百去　三百つゞく　一百ともも捨る

海（ウミ）　浦（ウラ）　渓（タニ）　湊（ミナト）　沖（オキ）

磯（イソ）　渡（ワタリ）　渚（ナギサ）　汀（ミギハ）　崎（サキ）

津（ツ）　洲（ス）　川（カハ）　江（エ）　池（イケ）

澤（サハ）　沼（ヌマ）　淵（フチ）　瀬（セ）　滝（タキ）

溝（ミゾ）　島（シマ）　井戸（ヰド）　筧（カケヒ）　樋（ヒ）

堤（ツツミ）　潮（ウシホ）　汐（シホ）　浪（ナミ）　泡（アハ）

流（ナガレ）　橋（ハシ）　渡（ワタリ）　岸（キシ）　松島（マツシマ）

幸崎一松（カラサキノヒトツマツ）　流木（ナガレギ）　水屑（ミクヅ）　海藻（カイソウ）

蓮（ハチス）　菖蒲（アヤメ）　藻（モ）　海苔（ノリ）

枯蓮（カキツバタ）　筏（イカダ）　藻（モ）　藻（モ）　海苔（ノリ）

紅（ベニ）　海士（アマ）　漁夫（イサリビ）　貝類（カヒルイ）　釣具（ツリグ）

網（アミ）　水母（クラゲ）　魚籠（ウヲノナ）　漁の石（レウナ）　澪標（ミヲツクシ）

教生貝（ハウジヤウエ）　清水（シミヅ）　布晒（ヌノサラシ）　川狩（カハカリ）　泉（イヅミ）

塩竈（シホガマ）　田（ナハシロ）　苗代（ナハシロ）

○非水邊詞

天の浮橋（アメノウキハシ）　月の出汐（デシホ）　鵲橋（カサギノ）

彩玉水（イキノタマミヅ）　汐路（シラカハセキ）　関（セキ）　天水（アマツミヅ）　岩井（イハヰ）

志賀松（シガノマツ）　佐野の渡（サノワタリ）　住吉（スミヨシ）　宮島（ムロノヤシマ）　難波（ナニハテラ）

思川（オモヒカハ）　三瀬川（ミツセ）

現の水　笠屋　干魚　干貝　塩
夢浮橋　意沛　蓮上葉　潤の淵

○神祇　三百去　三百つぐく　一百てもそそる

伊勢大神宮　天社　地社
社　祠　玉垣　拝殿　千木　鰹木　菱葉　形代　茅の輪　祓　神籬　神樂　神託　尊　傘　幣　川祓　川
神樂　大〳〵〳〵　もし〳〵　星祇　防賀安　榊葉　大麻法　榊葉の
高御座　高御座　幣帛　神饌　散米
幣礼　贄　高宮　高庭　御　物忌　神饌の供物　初穂　七五三
高庭　御　物忌　本殿祭

あはれ〳〵　世俗の歌　伊勢物語　年文
俗身　俗の矢大尽と云　中ぶくろと云　榊　神馬
洗米　叩首　二拝四拍手　羽蓋　神輿
祝詞　文屋　拝殿　中殿　神殿　神文　中後
矢　出衣　中尖綾　ふるびの水　船玉
切火　東遊　市殿　泊連　拍手　神楽
齋主　神官　宮司　神官　神楽
神主　社人　禰宜　神子　巫
八乙女　中師　神寂　文ちりて海　神楽　神楽
○非神祇
恵方　年徳　年男　男山　檜原
佐保姫　詩国姫　詩文　詩神　美男の神
山姫　放生門　精進

○釋教詞

諸佛の名　諸菩薩名　佛祖の名
羅漢の名　大人　和尚　能化
所化　長老　僧正　僧都　律師
出家　沙門　僧　主殿　執事
虚空僧　ほろ〳〵　ほろ〳〵　沙弥　尼僧　新発意
頭陀　諸山号院号　寺　門跡
精舎　伽藍　堂　塔　眠蔵
経蔵　客殿　庫裏　方丈　行堂
坊　厨子　高坊　五輪　石塔
卯塔　須弥壇　結跏趺座　諸仏菩薩
諸経の名　舎利　数珠　拂子
諸僧の法衣　五結　獨鈷　紅

蒲尾　帽子　笛　本尊　車輪
天蓋　花蔓　花足　塔婆　錫杖
線香　曼陀羅　袈裟　建具　袈裟
衣　抹香　常香　如意　如意
極楽　地獄　六道　三界六道　念佛
杉纂　題目　称名　法問　淡海
論議　持戒　五戒　破戒　悟道
執念　頓写　四句　百万遍　踊念佛
彼岸　十夜　看経　引導　入定
讃誦　建塔　禁足　祖定　功徳
血脈　灌頂　補陀落　齋　迎雲
非時　流物　来迎　因果　作麼生
護摩　生飯　殺心

○非釋教 非紙もても釈迦も二百去
煩惱 坊主藏等の釈迦の祖 主ともなりてもる釈迦あらば
法職人の釈名 法下法橋 おなり 鐘 醫者の釈名
頂学 書記

○兩部 非紙もも釈迦も二百去 二匁づく百もても拵る

弟釈天 聖天 摩利支天 多聞天
持國天 增長天 弁財天 廣目天 毘沙門天
此天と呼ぶる神祇も皆為釈なり
庚申待 山伏 蘇民將來 今剛杖 檜笠 檜杖 魔帽 條撫 通夜
主頭

非佛ものてつくたる句 為釈なり

○人倫之詞 二百去 二匁づく 百もても拵る

祖父 祖母 伯父 叔母 伯母 叔母 舅

姑 嫂 父 母 兄
弟 妹 我 妻
孫 息子 息女 女房 子
孫 夫 聟 縁者 甥
姪 視 彦 獨 孤
鰥 寡 聖學の名 僧法師の名
野良 傾城 娼妓 白拍子 藝妓 夜叉の名
実名 俗名 は和漢ともに知るべし

○非人倫之詞

帝 太子 皇子 皇女 本院
新院 仙洞 親王 宮 門跡
大君 公卿 法師 幼事 縣令
奉行 地頭 代官 一門 仙人

人間　長老　和尚　坊官　某

凡夫　俗　の道　民　百姓

商人　職人　大工　旦那　貝代

私　門主　貝附　富居　力

檀家　門守　花雪　本道

外科　老若　種兵　衆生　教

俗官人　守の字　師医ー　佛ー　僧ー　諸ー　鋼ー

苗字　者　印ー　文ー　徒ー　医ー　佛ー　僧ー　勘ー　僧坊の官人

釈迦の名

○動物

虫と蟲　鳥と鳥　獣と獣　因は義三百五百つゝく　一百ゝても捨る

虫と魚　鳥と獣　鳥のぼりて八百五百五百も　三百をつゝく

○居所乃詞　三百五　三百つゝく　一百ゝても捨る

家　屋　宿　庵　小屋

寮　園　亭　構　軒

書院　天井　店舗　棟　甍

玄関　園　納屋　博風　梁

塀　庇　樽　鴨居　鴨橋

國　園　床　窓　礎

壁　煙口　障

○居所用　なを居ゝるなれて重ね

村　里　町　但乃の乃氏何の町なども　なを居ゝるなれて　柱　古書ゝ　地居所

とゝの里でも居ゝる間を林　樹ー　なども居ゝるなれば

戸　築山　塀の内　土居　欄干　庭　居ゝるなれば　なを居ゝるなれば

泉乃　井戸　井筒　露地　外面

背戸　墨　障子　襖　市民　笹

翠簾　釣簾　暖簾

○非居所用

皇居　内裏　御所　住居　仮住居

子里　多玉　市場　芝居　劇場　遊廓　遊郭

鞠場　京の戸

○植物

本と木　菓と菓　木と菓　竹と木

はりて八百五十文れも
三百八つづゝ

○不高不低植物

藤　葡萄　山吹　樫　蔓

牡丹　卯花　五加木　枸杞　芍

鞠　萩　萩　本すも菓すも竹すも三百五十文
ゆすも三百五十文

支体　支体つ竹すも苦のくびとのことも
ふあるをおくしも同じ

顔　面　顔　面　顔　面　顔　面　顔　面

顔　面　顔　面　顔　面　顔　面

はるゝ者　目　鼻　口　ものゝ　目体　三百五十文
耳聰　三百五十文

耳こゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

○病体

醫者　按摩　の湯　鍼　灸

○旅体　各のぼりて三百五十文
でゝく百五十文

飛脚　送別　貢途　本陣　馬借

同屋　旅籠屋　乗掛　駅屋　添附

法師　関札　木俣　川留　宿取

蒲団法　小荷法　一里塚

○食類之詞

飲食とその値りて二百五十文づゝ

呑物と飲物と　飲食とその値りて二百五十文づゝ

○器財　器財つけても苦しのくびとのことも
ふあり

武具よ　武具　家具よ　家具　硯箱よ　硯箱
硯よ　墨　文墨　はのぬきの図書を二百去　二百つゝぶ　武具よ　兜　甚兵衛
庖丁　ほのぼりてもはてもはてもは

裙（キヤウ）　頻常（イハタヤビ）　襲衣（フヂコロモ）　裲（キヤウタビラ）　素轉（イロ）　表服

右官服　公服　僧衣　表服　礼服　平常の着用せざる
のみならず非衣類なりとも衣類なるべしとてもそ
ひ〳〵

○戀之詞　五目云　恋　慕　思　偲　恨　契　仇　形見　恋　物思　逢　情　疑　面　拵　紡　思　保

てもよろ〳〵とのべり

恋（コヒ）　夫（オツト）　女房（ニヨウボウ）　婦（ヨメ）　素（ツマ）
嫁（ヨメ）　妻（ナイギ）　女（ヨウナ）　娘（ムスメ）
花嫁（ハナヨメ）　花聟（ハナムコ）　八聟（イリムコ）　密夫（マフトコ）　腰元（コシモト）
傾城（ケイセイ）　遊女（イウジヨ）　昭岐（カタロ）　戯女（タハレメ）　白人（シロウト）
酒子（ヲトリコ）　冶郎（ヤラウ）　陰間（カゲマ）　花子（トビコ）　愛子（マヒコ）
花車（クワシヤ）　若衆（ワカシユウ）　美顔（ビガン）　辻売（ヨタカ）　妙嫁（ソウカ）
美後家（ワカゴケ）　白粉子（シラビヤウシ）　嬢（ウナヒ）　後添（ノチソヒ）　坊主妻（バウスキチ）
妹許（イモガリ）　音氣（ウワサ）　惚（ホレ）　詢（タヅネ）　情（ナサケ）

裙帶（ウハナリ）　形見（カタミ）　仇（アダ）　契（チギリ）　恨（ウラミ）
逢（ナリ）　情（ナサケ）　疑（ウタガヒ）　面（ツレナキ）　拵（チカヒ）　紡（マナビ）　思（オモヒ）　保（オモカケ）

紡倦

心中（キヤウ〳〵）　衣（キヤウ〳〵）　約（ちかひ）　恋（ソラ）　空（ソラ）　空（ソラ）　恋（ソラ）　空（ソラ）　恋（ソラ）　空（ソラ）　恋

ちぎりて　下焦　姿見　白粉　口紅
奴　呪　妹脊　嬖　立名　二葉
口吸　妓有　灰占　立名　子来文
結髪　女衒　密通　振袖　出合宿
離別　水祝　水揚　腕突　指切
髪切　股爽　目元の塩　袖留　物怪
文　孕　占　二心　扇形
子宝　執わさ　更迫　多枕　枕書
情姫　嫁　伊達　新枕　枕絵
頓摺　前もとり　の塵　紅脂　門立
爪紅　化粧　壓　長枕　戯
玉章　忘八　揚屋　湯女　前髪
念者　金剛　帳　帳　帳　指髪

詩哥傾城町名　初潮いたる　肌ふれ
立関　浮名　ちぶ性　まるひとひ
繻袋　白粉　まるひとひ性
添寝　袖の書

○非戀詞

奥様　後家　賤女　市女　桂女
中居　虜女　下女　西のり　桂
帚　鏡　枕　学の文　旅の文
誓女　髪　三縁　梦　偽
富執　乳母　泡　半婢　歌
于詐　褥　中間　天女　早苗女
佛日月星を祈る句
ひとゝ意ゝ那ゝ世ゝ
ゝとゝ句ゝゝよゝり意ゝもなるゝ

○述懐詞 二百五 一百もそもそも

寡 浪人 病人 綿子 乞食 今亡

老 白髮 三輪組 むの〜 零落 ブル、

苔 苔衣 命 親子 漁舟 有の雲

堰 うき世 世渡 古家

○非述懐詞

賤 山賤 男 雑訴 翁

尉 草庵 柴の戸 釣翁 妻帯翁

○無常之詞 哀傷ト 二百五 一百もそもそも 軽き者

ほうべ 鳥辺山 剱の山 三途川 葬所川原

死出の山 墓 野辺の送り 死 人魂

魂結 幽霊 立酒 なきゝ人 地獄

古き枕 古き家 ふるき紙 櫃

合戦 所々 鼻 髑髏 冥途

極楽 中陰 天平 用忌 追薦

長輝

○名所 名所名国名所の事 名所名国名所名所名所

二ツ文字 四字 刑部うはり 七百字
三の字より十の字まて二の字ト同じ
百ト万 ちわ字 刑部ちのうはり 四字
春字も 春字も ちわ字 四字 各同じ
赤の字 ちわ字 非意無の字ハ 四字
月 七 五百字 月次の月の字 二百字
花 四 わ字 花の字ハ 三百字
秋花 去 秋雪 去 秋水 去
秋月 蔵版 春夏 ちうとうの秋
秋菊 秋 四の月ちうの菊 去字
初雪秋 冬雪秋 雪の秋 四字 去
秋二 吉 二わ字の色
連秋 俳諧 風雅 教歌の人 各四字

詩 歌句 紙 紙 冊 文紙 小字
四字 伊勢の楽秋 各四字
伊勢の歌一 いせ唐 いせ唐老 いせ経
いせ物語 いせ物語 ちうの経物ちうの一去
しわ字ハ 武ハ 四字
同じ

東 西 南 北 北 罪の刑一 吉一わ字 伊勢物
角のはんハ 付てもお紙てもお蔵
雪の春ちう 七百字 雪の春ちうの春 四字
出の春ちう 四字 春も 春の武 四字
唐 唐道一 唐犬一 去
唐の菓 唐の唐 唐の唐 白尾 去
柳唐 毛ちうる 羽織 夏
初唐 芭蕉唐 山別 秋
唐の柳 唐 離唐 各

上 (イ)出入 今幾 (ロ)八花 早果

(オ)音置 蔭追

(ク)束 苦 苦雲

押 思 多 (マ)間

(ヤ)止 遠 山 頓 樣

又 待 迫 廻 (ケ)願 削 (フ)吹

源 振 (コ)木 小 考 迎 比

事 心 (エ)(テ)(ア)金 合 相 有

(サ)里 去 指 樣

下 文 小 (キ)切 束 関 涙

木 消 (ユ)行 搖 (メ)(ミ)道 訪

皆 見 水 身 (シ)下 補 杉

(ヱ)嶮 撰 (ヒ)日 引 人 (モ)持

物 本 減

過

(イ)出入 今幾 (ロ)八花 早果

時 所 通 (チ)近 後 (リ)又 温

(ル)(ヲ)小 結 尾 (ワ)割

合 我 侘 浸 忘 (カ)方 掛

替 川 裁 通 風 蓋 帰

(ヨ)夜 吉 (タ)為 立 絶 (レ)(ソ)言

初 袖 添 外 (ソ)甚 付 次

然 結 遣 (ネ)音 子 根 (ナ)鳴

啼 並 波 (ナキ)泣 猶 成

雙 (ラ)(ム)出 会 (ウ)内 打 浦

恨 憂 情 上 (ヰ)鮫 壁 (ノ)登

○同字別吟

宮酒は 宮
田野は 田
大夫は 大
志賀は 賀
伊勢は 勢
紙屋は 紙
春日は 春日
天皇は 天皇
代官は 代
関白は 関
拾遺は 拾
防風は 防
代物は 代
我は 我
一二は 一
誠は 誠
傘は 傘
中風は 中
人の頭は 種目
半天は 半
煙重は 重

今、はの如き所多き中にも寄の字所よりなるは是を付事とつかなり

○付字之事

家と家とは家を付て 家芭 家樗
家の子 家の子 三方去
朝は 朝日 星は 星月 弗は 弗

乾は 乾魅 雲は 雲見 蘭は 蘭草 鶏卵は 鶏頭花 紅は 紅葉 黒は 黒奴

はの如きあるのほかにても文字の出るよりて別分まあるべし

○賦物之事

松永貞徳翁つくり言はれし賦物のこと
連歌は浮と得られたることなり俳諧は
謎なるべく歌学はなりあるべく紙俳は
舎なるべく花俳諧の連歌まこと月の長句なるべ
月俳諧の連歌何にても夢の歌と書の趣
は得の申伝るべく事の流れる賦物和歌
と也保三丙戌年三月十日の花俳亭にあいて
之あらもなり御ありてもなるべきこと
なれば所相を記し

面白くもてあそびたり花も雪とみふ
後句の時雪の字形可しかとも伊勢物語
雪とふ雪とそ雪と付る例四と成て
花四雪四と面通きると路ふ故梅行と成て
らくとも梅雪と通ひ別云なると路ふ故なり
増何と成て増雪と通ひて面通風
何とも雪雨も雪雨も賦とふ　下何と雪雨
下賦とふ
一字変形とも　香と椒と形る
二字反音とも　蕣と蓉と形る
三字反音とも　陰と狸と形る
三字中男とも　狐と杵と形る
除扁　添扁　偽音　苦々文字形なり余も

准して知るべし

○月の句作心得

月・秋月　桂月　蛍の光　月の影　月と月　月の白星　雨　月の雫　月の雪　月の花　月の月　月の月　月の月

有明　春秋一　ツキ二出タル　一至ル秋モ

夏月　月涼　明あさ月　夏の雲

秋　夏の雲結ぶる白雲なり　但夏の秋月雲なる月まなり
なり　但雨ふりなれば月影のまぬかれなるなり

冬の月　月冴る　水底なり　さむる月　冬月

月雪　冬の雲結ぶる　月の雲雪　枯なり月の光　冬ながくもる雲

但白雲なる　月冴る　月冴て　冬なり　月の出

汐　水底なり　秋なり　月の岩　岸あり　秋なり　月の友　人待なり　月

の氷　月と岩　岸あり　月の雲雪　降雪　月

の主　人待なり　秋なり　月と主　人待なり　月と友　人待なり

有明人　秋なり　月の月　秋の　但冬なり　月

冬なり　秋なり　月の　月の　月

明ける　明ける　明なる

月の月　明の月　月夜の月

月雲　月雲　月雲　月結　月結　月結

月結　月結　月結

月結　月結　月結

○花乃部

花 百種を四季に分ち待ー 初ー ー盛ー
ー山 ー房 ー雲 ー笠
ー守 人偶 ー庭 ー園 ー滝
ー素 四季共なり ー秋 ー移 ー乃雨 降物あるいはと
ー雲 降物 ー乃滝 ー乃
ー雪 降物あるいはものの風情を雪と見るなり ー乃窓 ー
乃矢 ー月 人偶なり ー友 同上 花の箱
ー吹雪 降物 ー結 紙なり ー乃部
ー祭 ー藁 ー乃
白 ーにめで ー乃
ー島 ー絵 ー月家
ー家 ー車 ー瓶 ー生

ー篭 釣瓶なり但花生の付を非釣 ー四 同上 ー籬 同上 ー垣
ー友 人偶なり ー
ー花 ー落花 ー敷 ー見 ー
橋 付るん白なり 橋 ー
七夕生なり
ー吉野 ー付 ー
ー吉野 ー
以上の四花植物なり三百去なり

○褒美乃正花

花の春 春立なり ー月 初 花海 中華 手ー 春立
ー衣 衣類なり ー月 袖 同上 ー月 姿 意なり ー
月 桜 同上 ー夢 ー舞 ー娘 以上二条人偶
意なり
詞の ー 絵の ー 絵の ー 染物の ー
織物の ー 絵の中下植物なり 絵 以上植物三百
お歌 ー月 ー
のもとなり

まなりとも西花なれハなり

一四　西花なり　一筵　白色もの敷る伸る桂物ゝ云なり

一神樂　一九番ゝ　神の事　花の匂ゝ　神の事　五句なり

花の散ゝ　梅桜の敷ゝ　西なる方の高ち高ち月の高ち風仰ゝ　一の夜番ゝ風仰ゝ

西花百韻　多他の句一句つゝなり　花乃句

白図色色自ゝ　花に付る

時付ゝ　古時ゝ　花若ゝ　時ハ付ル

花に月雪ゝ　結句　花に名所結句　句なり　俳歌意ゝ結句

句　句を結ゝ　花に生歌ゝ結句　月花を

結ふ句　花に付ゝ　他者の花　一ツなり　西花段

句　脇第三まで　花の宴社　花に付ル

句　句の内ゝ

△夏の西花　緑花　長歌ゝ　花

摘　金花　氷室の花　子規ゝ花ゝ

結ふ句　花に付ゝ

△林の西花　花大　花踊　花を花

△名残西花　花残　花を名残

△雑の西花　花の名ち　花に名残ゝ

結ふ句　雪月花　花鳥　花の名ち

○非正花分

花の帽子　花の綿帽子なり　一四帯　つちゝ

花　仕法のつゝひゝと　一丁子　湯の一　一肌

ー燈 同上 糊の花 大花 灯乃ー 丁ふれなり

墨ー 書 墨を錆 浪乃ー 雲ー 大なる

紙 深色乃ー 名 蓮の名 ー ふれ 狂言

六の花 雷 ー町乃釈迦 ー国境 ー頂山

ー川戸 味のなく氏 苗字人名 雷名 ー王 牡丹

ー ふ 富士 同上 ー ふ 源遠 勇なり ー ふ 兄 梅

ー ふ 天子 雷 ー ふ 宰相 芋茎 瞬きする ー 汚茎

ー ふ ー 名 三 ー ふ 雷 まつむー ふ花 ー か

つ 吉 蒜 四枚ー ふ 生陽花 ー ふ 紙の殻なり 又 紙の異名

○

① 稲妻 妻乃字 面を焼ふ ー 光 雑人 数多 ふ ー ふ 吹ふ 雷 面を焼ふ 光の字に面を焼ふー

ー ふて 雷電 漁火 数多なり 火多 八丸 八の字

ふべ ー ふ 焼ふ十五乃面 八の字

二方焼ふ夕暁 妻乃字 ふ 吹 雷 ふ 吹 雷 ふ 焼 雷 ふ 焼 雷 ふ 焼

第五段のてをてし
なをなほふなり

齋宮（イツキミヤ）　名あるなり一一加茂の祭院あるべしと今は決定
秋深きのゆりて
仏菩加茂一つなり

今宵　名あるべし
なをなるべし

行う神　佛を
行うなるべし仏像
山伏の行ひ国おなり
とさほくいく行も

いみさし　沙汰なり
神なる仏

岩舟（イハつね）　あるべし舟の名なる白煙の天
乗まて迄さしいませ一なのせてなり
船なりとつり説あるとと有く
都鳥の人を云人作なり居おか
お紙を結上おのよ国おなり

都のこと

都を知る　紙なる人居
不なる行しし

都のこは面を頭ふ今ふ都と書をての白あんを都を知る人
うしし都と山分ち居あ書頭をしし都をなるとの六頭ふてきる
云く

妹（イモ）　書面を頭ふ
京なり

一門　一れ書もとーてもの
人作なるあし

一

犬　一云のころ一一第一成一
ろれもわを頭ふ

殺生会（イケルスナツ）　すべて生殺止
まりり殺を

ひさに

命　二名歌書の一み二わをうてあへし今ー
二国の結わをうる　出の一二国の結二百なり

生死（イキシニ）　出情なりうまる家
せとは死ま二百結ま書

み意の一色て意の国の結
あるべうしし一出情なり
出情
なり

糸　ーをうしにあるし
仏ま世節の

石大夫　殺地
ある

とうて
ほうへ

射場はじめ　四月十五日場所へ
ほうへ

岩木（イハタケ）　植物
しても植物なり

岩葺（イハタケ）　植物
人

都　四ます
長歌の一

出あ一ある書ま書ましし
四のうちまり一ッ花なり

都の風　居あるも風仰ます二
白結ま風のまま二百

人都の名ある面を頭ふ一の風
都のあ作代く結ふなり

一文字　八なり一村面一雪
なるべうなりてを文

八なり 河と考とうなりなるは八七百なり七百結
とうなる国おの国なり面はりてを二百五

都竜（ツバメ）　葉
ま二

白なり今ま結とうなる
あれとも都なるの面なり

軍（イクサ）　一花ま一今ま花一まの正
花なり是ま面の言葉と

揚羽蝶と云別ま花まて
ま今ま一なるまなり

最（イト）

しやむとなる

一沸し　一なる一結ま　一は彩なるまて
なるま

いとけ
なる

いとけなるま　人作ますしし書ますの書ましし結ても
書ーうーは初雑ますかなり

出るさ　一出ますのまま
ま二八百五

池の山　一池の魚
百五

いはぬ色　一岩を山ま色
二百　云ま二百

いをなるまく　一わを京
落ま面眠

七百なり

いさ　結山
なり

いざ　正部と云知
らぬと

いさよ

ふ　二百頃ふ

幾日（イクカ）　日結の日
二百結

いつよ　結ってまと云何
ろれも二百結

今　ここ今結ても

いつよ　いづち　何なぞまと
ここ　置ま風二百なり

蔕（ヤド）　花のあるあしの句仰まを者ー

紅葉（モミヂ）　ー之はのあまあまあるけるもの　ー四（サク）　正花之樣ちかの　ー大　根ねの之何まも正花なる　ー

紅葉　ー之はのあまあまあるけるもの　ー四

但一ゝ句作まり取句あり〳〵は今ま別の句を意へくごゝ付 諸家名〻

贄（ニヘ） 非紙なり生鮭ま二句へ勝のまゝ〳〵なるべく云ゝ者前のごとく今ま一ハ四裏ゑハ非社なるへ（せなるべ）つき酒をまる節もあ里苦鞠の年代とく勝ゑ一ゝまゝへ墨田市代改時より路る云合なり元日にあるとゝ付て肥後国言出郡を流りなるまゝ仏くる魚まて勝ゑとゝふもゝれ名ハ二ヘウヲと唱一なり今廣に

菊（ニホ）ゝる華（タケノ） 梅柏ま二句へまゝ者ゑ紙を結へ松竹

同魚名歓生鮭ゝ者紙と唱ふゝまゝ水口ま有一に

白ひ（ニホ） まゝ白唱ふ

みげなす一

似名ゝる

賑（ニギカ） まゝはひゝゝゝ代詞二斗あるて一逃るなゝふ

詞人名歓ゝけりて二斗みべ一

鰰（ニシキ） 唱ゑ付ゝの一に今ゝ同名ゝ者ゑ代ゝ白ゝて

花なゝゝ者打若ゝに名ゝと今ゝなゝゝ初ゝゝべ一

濁（ニゴリ） 国名の百二句去雑ハてゝゝ

ふ角（ドウリ） ゝゝゝゝ云絹唱ゝ

白唱ふ

なり

みて 二句去留りゝ

七句去なり

（ホ）

量（ホシ） 一水斗 一七文一 佛一ほ名ゝ結ふ

的の一一貝針ゝ者ゝ裏ゝ有ゝ

洞（ホラ） 二塚二塚ゝ

ゝ面をき

ら ふ形知ゝ

二句去なり

細江（ホソエ） 名ゝ有ゝ裏ゝ有ゝ

細江ゝ名ゝ有ゝ

佛（ホトケ） 五二 志佛

一沙一ゝ

一法 一そ一非なゝ代内又二も

ある一一何ゝも打ゝきゝふ

佛二 みゝゝ米ゝ

ゝ面を唱

布袋（ホテイ） 形ゝ色ゝ人ゝ得ゝ有ゝ

袋ゝ付ゝゝ唱ふ

ふ紙（ホトギス） 雪を結ゝも名ゝ今

ゝひゝて三なり杜鵑（トケン）

ゝ紙 郭公の内なり古法四郎ゝ

ゝ紙ゝ他ゝの山国ゝ者ゝて布数ゝなり

今ゝ彩ゝゝて

二なり

榻（ホタ） 長ゝ

丹（タン） 法ゝ象 ゝゝ象 ゝゝ象

山内出ゝちゝ三ッ有べ一

の法法代非ゝ

ゝ有ゝて

ほ（ホタル） 蛍 蛍ゝ水

四ゝ有ゝ

干瓜（ホシウリ） 干ゝの瓜 桂瓜

牡（ボ）

ほ（ホ） 穂 一ゝ作ゝ枝ゝ非紙ゝ

藤の刃ゝて作ゝ部ゝ信濃

ほゝ

ほゝ

ほゝ

とのの的（トノマト）　歌あるあしの的のまとの的なり　辰の日なり　なかの的のまとの的なり　今の流鏑馬なりとつたへし　四月今も十二月中の
年の流鏑馬なり　鎌倉武鑑書云　年の的とも　綾言今も

射場　射の場

惟光（トモレビ）　一法の一一一　一節　一ん　みあ一一　今ま一一
絵の一一　一法の一　はれを　惟の惟　一ん

とのの的　とのの的なり　**思射**（トモシ）　義人　義の義　義の義　義をとること
ゆみ　大人　大の和なり　灯の裏み
あ一一　大半（ホクシ）も　**左里山**（トホサトヤマ）　**掃部の**　名あま二百
回分

泊（トマリ）

あ四ますあしの名あ　**名の**（ナノ）　**名の**（ナノ）　**名書**（ナヅマ）　名の名の名の名の名の
をさせを水四ん　ら四ん　**殿**（トノ）　町一と左腦一　あの四ま又二種一とんをとん
つげ　うもけ四ん　おをとゆ一ま一　一上なと
と言ますみて四ん　とあとでん
とあ百ま裏書ますん一

戸（ト）　人　はあるとば一　**戸**
ま　上一下一二百ま又ますとば一七百姫ふ天の戸を　**戸**
戸あますあしば今ま戸とみ　みんても五ん

明日（ヨロ）　歌のあるの　二百　**戸**　**戸**　**と**

ば一　戸あま　二百　**ふく**　戸あま　二百　**答屋**　戸あん　水色ま　あしん　和のと
まふき又　**答ふく**　**歌**　ふりの　**床**　戸あん　社頭の一　**築**
ますん　答ふく　歌　ふりの　戸あの一　社頭の一

歌あの一　名の歌の一　行目も　歌あの　行ん　名ゆ　ふ　ほりる一
の名　七百姫ふ今ま一　戸あま　一名ま　一歌ま　一ゆ上ま　ん　ま　ん　ま　ん　み て

もーの名ま　ん一の山一の浦
の四ま四ま　ん　ま　て　ま　ん　ま　ん

歌ま（トコ）　**友**（トモ）　二人　俳ひ二名
二百姫　俳ひ

歌の一　或ま　ホウイウ　と言ますみても
四ん　名の歌の一　ハ四の四なり
ま　も百姫又　名の　一の名
などつまも七百姫

名（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）
名　生　生　生　生　生　生　生　生
歌　歌　歌　歌　歌　歌　歌　歌
と　と　と　と　と　と　と　と
言　言　言　言　言　言　言　言
百　百　百　百　百　百　百　百
ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん

名（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）
姫　姫　姫　姫　姫　姫　姫　姫
相　相　相　相　相　相　相　相
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
歌　歌　歌　歌　歌　歌　歌　歌
歌　歌　歌　歌　歌　歌　歌　歌

名（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）　**名**（ナ）
姫　姫　姫　姫　姫　姫　姫　姫
二　二　二　二　二　二　二　二
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
一　一　一　一　一　一　一　一
歌　歌　歌　歌　歌　歌　歌　歌
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
一　一　一　一　一　一　一　一
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
一　一　一　一　一　一　一　一
村　村　村　村　村　村　村　村
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
一　一　一　一　一　一　一　一
歌　歌　歌　歌　歌　歌　歌　歌

千代ハヤフル　神のまゝ百人一首の中

千代ハヤフル　神のまゝ百人一首の中

千代ハヤフル　神のまゝ百人一首の中

全く一つあるべし　男　女とのふ
事あり　むもこの四つ
て五

未通女子　小忘衣非紙ヨリ出ちる四つ女子連ふ
ヲトメ　ヲトメ
ヲトメ　女のもとへ入なと用事なれとも面をそむけ
打を踏　女郎　猫　犬　とりの類ち人あり　さんぢ女子も女性
ちも七句踏ふ　一人結ぶ　女房女性なぐ　事もよみても二句五
ぐ　以女の子多く　ちひさきもの　なきび打ちッ充五とん四べ

小とこ　三句　句を踏

牡鹿のをよ　小のをふの事少踏
男鹿と云ひさを

よ小の事付句を踏ふ　古海白さ御らるわの事を踏ふ　を
の説非なりはサちまる海ふサにて小のんるあ以

鴨くよ　水ーきとふ　を結てもなく
水ーきとふ　を結てもなく

尾花　尾のもの事せる二句
尾花　尾のもの事せる二句

少ち丹　一海生ー一小鮒
ちひさき丹一

萩　一手をくて又二もあ一ー一他の事ち一伊勢の
萩　一手をくて又二もあ一ー一他の事ち一伊勢の

演ーの四月ほ　テキクワと事ふ　ーの焼ホーの
演ーの四月ほ　テキクワと事ふ　ーの焼ホーの

ちもえ　ふ事ふ　ー歳ちる　かるもみと
ーる風体二句踏　位ーのちめんちる　八風きらはぞ

を近　チカヒ

二をちと外二今ふ　ーーとひて一をちくとらひて又五
ちをちと外八二ッあ　ーをちとちをさをきも世る二句

打　ちる時間ーんる用
ひとちバ二句踏ふ

拝　非伝月日のてちる三て二五
ーをぐ　おハみもあ

⑦

渡ー丹　川四のー
ワタ　橋なり

脇さーよ　刀左刀面
ワキ　なきふ

蘆縄
ワラヒ

橋ちる行ふれ事をもも
ふふハ橋ちる行ふ

鮮口　生船ふ踏ちるのほ
ワニグチ　ーてち生船ちる二句

海原　海ち面を踏
ワタノハラ　田のちー踏

ちちる因　橋ちる
二句

若菜　只一ちを
ワカナ　又五ー

若菜　一菜ち一ふ未一ふ菜
ワカ　バ　ふ菜ちふ

人のちちき面をきちふ
雑なり　花を結てもなる
ちの事ち二句なり

ちちれ菜　一萱
菜

若菜
ワカナ

ちちと
本紙二句
なり

孫ち
ワタ

番茶
ワガキミ
打をふ人信のかなり

ちた
ちの

ちた
ちの

茶三きぬくを
ちの外なり

別ち
ワカ
二句踏

別を
只二茶ち二
今ちちれの

茶三十ち
面をきふ

ちちる四ちを
二句云なり

茶の別ち
きぬく二句踏ふきぬく二句
ちの別きぬく七句

一癖のこと
なり

ちちは
邂逅

ちちハやと

ちれちをーき
一我ち人ちの差別も
ちちぬを云

ちぶきちり

ちぶと云
使ちうきちちき
昭ちに

ちちる
二句踏

楊徒
ワタマシ
二句

まとれしがうとみ　題のまゝ二句之

暝ふ　和歌に　わ音面を暝ふ

㋕ うぐひす　雅之ーーのも習ふ者之也今ーて八林之
今るーー説ゝ五古今の歌ゝ者ふめや
もーーのり自ゝ者ゝ歌ゝ世ゝ詠ハ陽炎ゝ云て春花ゝ乃
喉ゝ者ゝ時鳥乃上ゝにちゝゝと眼ゝ遮ゝ物ゝ云ふ情蜻ゝ云ふ
世ゝ者ゝ林ゝ云ふ之ゝ乃ゝ行ゝ者ゝあり行ゝ者ゝも情蜻ゝ者ゝ皆ーーの名ゝ者ハ
雅之又世ゝ者ゝーーゝ云ふゝ者ゝ一ゝ者ゝあーーちゝゝゝ者ゝ者ゝ者

紙を貼ふ蒲太刀ハ　紙子　衣類　頭の雪　ふり物ま
うつ　ひあつ　首途　門の出七日祝出の事
二日五日あつ　棟　只一名　
畳懐之

うつまみ　一ぱいのこと　うはつ　乳母　一名
かきのとう　樹ま　ひあつ　そこ　うわつ　一名
のことなり　きと
うとふ　居所ま　上　八之ウ　一つ　ジャウ　又八之ウ　又四之　生四の
二百之　ウハ　ウとなり　ウとて　又四之　生四の
百ハ　ウを貼ふカミとなり　猪　ゐのし　二獣　二川　一生間
と日百七日なり　出ゐのしに四之　さゐらし　と
けーゐのしに　
五之

切帳　切帳　切帳之今まつり　片
表　岩根　衣行　道　ゐのし　ゐ　ゐ　ゐ

とこの内一ツは二定佛後法張なとの意なり　うふと云
みやまとなりてうつもあり
祖　二句　たとへハいふと云ふ意なり　ものは
まやのまの祖れ百二句脱
一説くと　看經　看経
ゝ説句ゝ

方に　片付ても不著　かはゝ　如文や　松のひとや　うはの雪　ゝ
片付ても不脱　時枝ゝ文ゝとふ事ハそれ程ハ
枝ゝなるゝ　時之まる　准くふ
なとの枝ゝ　組句も打合も　合ものゝ　おそ〳〵　打合　きゝ〳〵
ゝ句の文ゝ　二ツゝ　おそ〳〵
ゝよ　世世なとの世の事二句　わとりも二句きらふ　かゝてぶひ　雞ゝ　雞
反に　ゆる時　ゆり　ゆるに　ゆるまて　雞よ
二句ゝ　ゆりゆるまて　ゆるまて三句脱
ゝてそ　ゆるまて七句脱　ゝと　ゆり
ゝてきく　ゝてもくも　ゝなる三句去なり
よ　ゝてもとなり　ゝ　ゝ　ゝ

森百
なり

タ

高根　又二岳二今は岩根ともいふ

谷　只二名和は二谷和は一谷の戸屋和は二句之戸八戸々々の田之一の戸二戸々々七句略ふ今は一の戸屋を云ふ

田よ　一説少も略せしに和とふ故とりともよめば之み田舎少も略せしに又麻を絶ても植田を行らに麻長とーて句略は二句之草山ふ引板なと〻絶ても二句之〻なる長ふんなまぐく之みせー里法ーの杜ぐまも二句屋代は苗はこぐまも二句之ところあぜなれものも二句云

田と化　難之田を人に田をもく

之みこのむの屋とそてもあ句略

高野　山高きあーに空海より山

名云

渋よ　あとなーしーあとなーしーを用金之

あれ名和

立田　立のやあ二句

なり　田八句きふ

高成松　山形なり名和なり

旅の古墨八面々句の内ともはーー

但屋ーとは面を略ふ

竹の云　沖紙なり名和なり

楢和之

あーに

七夕　和名之

あーに月日ま丁句略月日など絶ても樂名

てふ之ーー

ちくふ河　底ちあーに赤もまつ出なとーいはーー高なり今は松のまつ之句云ありとつ

鷹　二名を云て二ツ　鷹之一屋と一屋の日なとの

鷲　二寺

白き　ふ

塔　只一名和一石ーみあり

柳　云て二斗五ーし

蕨よ　焼面きら文焼

明松　大二句きふ

氏乃竈　居ちあーに

焼火　赤分

ちあーに芦火もーかひ皆ーー

槽 一花ボーも きらもに

魂 玉の字二句姓 別玉字あり

命なども二句姓ふ意の一一意の命などハ初をとて 命面をきらふ也 別玉字あり

五人一一今ヨ一一字ヨ二意ヨ一命のかヨ又一 緒冊

ゆヨ面をきらふ

玉おれ屋 一位なれ ととゝ

大よ オホイとも云ク 丸面をきらふ

又ちよたわ 付て ふ若

大と丈 初をきらふ一名一ヨ物一本 一字ホ乃ヒとなり

旅の字 四人今ヨ字ヨみ ても以上ニなり

高ふ クホの一 国一天 八三句ち

高の字 八人カウと云ふ ても八なり

頼 字ヨ二口二年ヨ紙の字五人 内意の字ヨ二三句もあり

竹と作 五句ち一ヨ一四の里 二句きらふ

只とふ 内の字 二句人

給はる 給ひてなどの 付句二なり

たどる なをかゝふ新 付句を略ふ

たど 付句を略ふ

見く 初ち 見 ます ヨ

ふつき きくド 清人 字ヨ ヨ字ヨ字ヨ字

空云（ソラゴト）　そらうそそらごのひさうやうの　存の字（ソンズ）　二年五月一日

命而一名　何　　そ　一ものもとる　の新ハ年の新　ぞと

二句又そとそも二句云

六月　六月四一六一　水ノ　まわり

（ツ）月清弗（ツキヨミノ）　名和名一一の赤四角　月　四月一つつん一と

名の弗を名和名雅に　一日四月五月五月一五月　一一秋

書　　七月一番ゆ二月三月　めの百ゆ二月なる　二句月と名の四月書ゆ

ゆ　但ハなぐ〳〵秋ゆても苦の〳〵に　月に　移る二句　二句なり

名和名の書ゆ大方なきなり　一ゆ日二句きぐふ

日次の日四角一ゆ雅二句又きぐ〳〵　やゆひさぐ〳〵の月に

おを略ゆに又新を結ひて二句日ゆ　日ゆ月日おなり

くふ月（ゆ）　ゆをまつ一ゆ一一月出る　夕歌の月ゆ結

ひくゆ一日ゆもひくゆ一一つまもあゆ雅に

月なみの月（ゆ）　月一日二句雅　月は雲　雲

第一弗ゆ月ゆ名　白

ゆ略ゆ名の和のそゆ

除和ゆきぐ〳〵に

月の友（人偽）　人偽ゆあ〳〵に但句弗ゆ

ゆ長人偽　ゆ一一一人偽ゆ

ゆあ〳〵に

弗雅ゆ

月さはり（ゆ）　月さはり　月次ゆ

月結（マナ）　ゆがむ

弗雅ゆ　霜平弗（シモツユ）一時あ時のごく〳〵つぐきゆゆ結ゆ結ゆ

なり

霜平弗　ゆ一一時ゆ時のごく〳〵つぐきゆゆ結ゆ結ゆ

霜更て（フケ）　とゆ云ても　霜弗ゆ（コホ）　霜弗ゆ　ゆを弗ゆ一ゆきゆ

（ゆを弗ゆ）　ゆはゆゆ二句

一けき晴　雨あゆ　ゆ晴

又ある

一一

樺（ツバキ）　樺ゆ花を結てゆゆ　月弗（霜ゆれ　ゆと）　鄭澤（ツジ）　ゆを弗ゆ　ゆゆ

たゆゆ弗ゆ用ゆ弗ゆ一一ゆ

ゆ晴ゆ大方弗ゆ　ゆゆ一句ゆ云ゆ　但弗ゆ　但弗ゆ　ゆゆ

ゆ晴ゆ大方弗ゆ　ゆゆ一句ゆ云ゆ　但弗ゆ　但弗ゆ　ゆゆ

ゆゆ弗ゆ弗ゆ　ゆゆ

妻 一戸一ツマ などゝ書て妻とあつ
五一一 使 人偏あゝ使 使ふ人 只二音 一又音 呉漢一なるの
四ノ一ある つゝも髪 一髪 カミ 二句云なり つゝ里うた
ふ 一偏ノボツくうゝふ とゝの字なり 法きなさ 只二音 繋 ツナク
うれこれ云へ つのふる 二云つゝ つのはも
て四なり 上の字 はあるもつゝ 上の字 二句 云へ
あるこゝ二句 一一一 二五一一 上の字 二句 云へ 法
て 只二音 一 旅ノ一 綾 ツレ 淋しき 七句 つゝてふ
をは 一句云なり 五一なり つゝ 七句云 留り 二句 つゝ
留り 四句 句つゝ留 只偏など云るなり 上の字 一留りなゝ 上に一音云なり又上の
非なり 句なり 上をはをゝらぬ故の

㊍ 根ね 根 ハ 只偏 はたの一一 根ね 眺望 ナガメ なり
子の日 の年又五一一 年 植物 二句 姫 ネンシヤ
子なり 日 わ 打 植 姫 付句 きゝ ゝ ば
人偏 ゝ 種豆 ネギ 非 紙なり 嵐 ネズミ 歌ふ 一 火 一 本戸
人偏なり 偏なり 一 ケ くうゝ 歌 ゝ 四

猫 ネコ 一 ゝ びのゝ ゝ ゝ ま など
五一一 五一一 五一一

侍人 ネンゲビト 一 書 ゝ ゝ ぬ 根 ネ 岩一 坂一 など の一 の字 八
人なり 坂一 など ゝ ゝ げ 姫

岩一 坂一 など ゝ ゝ ぬ 閑 ネヤ 根 ネ 形の糸 ネカビ イト
竹 竹 竹

[illegible]

藤波（フジナミ）尾花の波の波の中　波の色（ナミ）[illegible]

[illegible]

涙の露（ツユ）　枝に露の[illegible]

涙の霞（カスミ）　[illegible]

涙の時雨（シグレ）　冬に霜の[illegible]

波の雪　[illegible]

波の雪の霜　[illegible]

[illegible]

うぐみ（ナデシコ）　撫子　二ふたつなどく異名　人の名

人の名　位の名の名なども人の名なり

涙（ナミダ）　涙なり　涙の露　神の露　涙の[illegible]

[illegible]

なきて　むなしき二句　又なきの付句を[illegible]

[illegible]

人の涙（ナミダ）　[illegible]

中空（ナカゾラ）　一中の[illegible]

[illegible]

なるに　結なる[illegible]

[illegible]

名の雪　[illegible]

[illegible]

嘆の布（モト）　枝の[illegible]

[illegible]

嘆（ナルコ）　[illegible]

[illegible]

菊（ナホザリ）　[illegible]

[illegible]

[illegible]

也 同じ　なりに　なり　なるまで　なるや　なるべし　なるべん　なりける　なりたり　なるべし　なるべん　なりける　なりたり

四八年ヨリ戌の年ニ百年ヲ経ル　なるべし　なるべん　なりける　なりたり

百韻ヲ百のさけぶ　なるべし　なるべん　なりける　なりたり

ヘ年ヨリ　なるべし　なるべん　なりける　なりたり

なり　なるべし　なるべん　なりける　なりたり

白の留ヲ百韻ヲ三つつなり

（ラ）

乱世　ラン世　基ヲ　基ヲ　基ヲ　基ヲ　基ヲ　基ヲ　基ヲ　基ヲ　基ヲ　基ヲ　基ヲ　基ヲ

乱

むろのき さ 一名なりさ ムロカル

羅 村の名の二句に今まむらる一部集なるべく

考ふるに又一説に

ウ 蘇 一説一生宗 うらかた

お指ふあくに花の名なり

埋火 ウヅミビ 埋の名の四句なり

海 二名あり二ようなるべく

白云 ものはくに西を始ふ

なり

うくひす 枯 枯なり

も名名付て枯るに名枯と計ハ花園時者ニ乗花なるべく

又世ものに桂句三句に一一と一又桂者の句者ふるべく

五へ一名桂と聖あり

梅 一名梅一名本の一一名一名

桂句なるて五へ

一乃句ふ考ふ人一今ふ桂式ふて考ふ

不句の句の四梅のられ方偏よ方六五へ

桂田 ウエダ 桂田名ふ桂句一二

ら花

藤 ウバラ 藤に句を結て句ふ長なり今ふ

藤に

一一元名あの一本又あへ

梅漬 一十桂 あり

桂句に雑に今ふ一一

埋木 ウモレギ 桂句り 二句の

蔓 ムクラ 蔓花蔓

一一て花
ゆ五
二表紙の花一云のたの子
たふ姫 俱云のたれ芒 詞
ゆ子 ゆ角の花もと
より移ゆまらふ

謡ゆ 中ゆ面をきらふ一ゆ謡七句姫ふ小ゆ
ゆ謡同ゆ又一ゆ短冊面をきらふ又一に
ゆ連ゆも付面ゆ云のゆ
ゆ言はくわをきらふ

謡ゆ うたふわ
をきらふ

謡ゆ 緒のうた
ふ面姫

能まと
同ゆ

生るに 年ゆ姫は死ゆ
いのちきらふ

生るゆ子 生徒
ゆあ

ゆ一ゆ空姫なとをて作ゆさうじやと云ゆ
りムの仮名とをゆるゆ

うべ 一ゆ空姫
なりムの仮

うたゆ
二うち浦〜ゆら中〜ゆ
浦をきらゆに

うたゆ

うらとの浦
浦をきらゆに

一絶とゆ
ゆ

一絶とゆ
ゆ

うきて
一うきてゆ
ゆ

うきび
ゆ

一男女十三
ゆまてゆ

うたゆる子

ゆの子ゆ
ゆ

呪詛
ゆ

うたゆ

恨
ゆ

罪ゆ一ゆ
ゆて
ゆ

恨
ゆ

なびく
ゆ

一ゆ
ゆ

うつ〜ん
一ゆ
ゆ

うつ〜
ゆ

浦の
ゆ

空植
ゆ

うはの空
ゆ

らやゆ〜
ゆ

但ゆ
ゆ

うち
ゆ

上ゆ
ゆ

ゆ
ゆ

ゆ
ゆ

ゆ
ゆ

四四月上の卯日大和三輪
久くとも方今四月名
之人の真も
四の卯

沖（オキ） 巳一名和名二年に沖二
名やまゆとも

おくて田 稲穂三旬後年
稲穂三旬後

奥山（オク） 一山のわく一年より奥の年
四月より陸奥とまれば四月か

大井川 名
のことく稲穂
三旬きらふ

鬼（オニ） 一キジン一名一百合 一瓦 初をきらふ
名やうれ名々き絶いうせ初をそもわをきら
之アーヌ一百合 一蒭（アヤメ）の初
四又わをうてあへ一
名又五

親子（オヤコ） 二旬時ア一
つきそ人後

おくて田 稲穂三旬後年
稲穂三旬後

親（オヤ） 虫情を用ひたる年も回
あ又一一長帽子一一生絶

菊（オキク） 初の一 年長一あ
つまも虫情を生

老（オイ） 二名歟三一本三一人の一二の男ハ初を殖ふ年一人多歟
本三年より三之一名虫情の初之一の白四十三名四人多歟
之せ白ことと但一比等一本 石一つ一る性なしたる多て虫情
のかなーはーの年ハ他の一之長き白る様のうへうに白多ーを
いつことを
居むー

老（オイ） 若付白多殖ふに年歟三る用経走一年
又一三あき白あ之一三殖の年三旬つ白多
なしく古白れ初と白殖ふ年一三之殖の年ふみの書ふくれ紙を噴く
之おも陸一の沙法なれむと白殖一一高なとれ白体なくで
殖ふくつにまくとれ二白きらふ初き回おり

海苔（オチバ） 二名ホのー一二一
初のー一殖之柳ちるりくろるる社たり

海苔（オチバ） 落葉十五名ちんとも色
のまにひりて枯

奥草（オモヒ） 桂花枯
年三年枯

晩り世むと産めせばとしとこ之面とし面やのきらふに
狭とのこ之面せされ世のあなとに面やきらふ

晩れむ 四花三名一名 枯れり

晩を焼（ヤク） 三名 桂花枯
二白

晩れ

云 非紙なり今三経三名
いつまも出くちに一百つ之一一れ別枯 桂回一

晩分（ワキ） 風雅三白晩の年分の年三二白年三一一枯 四七
八月三俗之古風なり 墨風とくなり

初（イキ） 四 年三一二
一稲咲三之

初（イキ） 庭回年
なり

初れ玉水 年の
又水回

初れ菖蒲（アヤメ） 桂花
水回

初（イキ） 四上

法（イリ） 仏一一陽（イリ）一回年ようにひとくて四一友ろはあ年に
一又仏一の年一会法年の一五之
し咲三之 古法回ホフ名
長寿漢名ハフなり

蚕（カ） 一つ三白殖ふ年に一一二うと一
ウラ・カなどゆ云ふて一咲之
四之生彩の上そい面
とうてて又五ア一

乃至海（ノイ） 上のやふ云ふて
も二白なり

春とのこと
絃（イウ）

一巻一とと云ふて年ふ又五ア一一の服
回ア凡人後三名ふ人後なり
ふ初去のことく
旧の百二白殖ふ

の法一 一強場の金一年一の烟
之狂烟とく

㋐ 勝月（オボロツキヨ） 霞二
白

遅（オソ） 一年ふ
面之殖

大井川（オホミワ）
年ふ

のもれ〜て外ス
二句の絶〜

あとれぶろう 一大厳油とも
光孝天皇の名云

大を

そ舎 一ろ〜ぼをふたり
万葉集にあり

あいらく 一ねいろのるりを
延てらくと云也

あいらく 一ろ〜ぼ一句
きちふ

仲 一ろ〜ぼ一句
きちふ

とく 杉を始ふオとく〜ごとく書
七句〜オン四み四ゴ四ス〜

仲花 花也〜三字〜
又異名〜今ヨ

ありてぐせ 二面目〜ろ〜〜なひう
つ〜〜く〜雪狐ヨ伏ヨ面云

あとゆ〜〜き 一ろ〜〜き
とふ

面影 面影の字共ヨ一句
軽の字共ヨ一句

あぶろげ 寒ヨ〜ぼ〜〜月ヨ
強〜なまま

鼻の

字 八ス

起 起の字〜ぬぞ〜ともいとともぬるとも
一切霧さと〜ニ悪〜

思ヨ

覚 覚の字選の字
夫二句陸〜の鋼鉄絶ヨ三句〜思ひ〜に思の字選の字
せ〜ニ句なり今ヨ思ひやヨの祝て〜ぬ〜ニ句なり

ありてね

ヨ 一本ちきニ句陸〜思ヨ今〜ヨ
思ひとく思ひとく七句云ヨ陸今ヨ

こ〜 一面をとろ〜面目を
ろとこをとふ

音ヨ 音ヨ 寒ヨ二句陸〜又〜
〜ねとろ〜ヨ二句陸信

あれ

寒ヨ〜ろ〜ヨ〜ヨ〜ヨ
ヨ重寒ヨも二句陸

ひ〜〜の 一大〜〜〜ヨ
〜〜〜〜ふ

ぐ〜ろ 一ろ〜ぼ〜〜〜と
ひ〜ろなり

大と 大と 大の
タイ又ヨ

字 四ス 一面 一ヨ
一本大はなどに二句陸ふ大ユ一名も四ス〜

行ひ

一ねこたふ
又ヨ〜〜

茅花祝 祝の字〜今ヨ〜ニ〜又和歌の
祝解ねとろ〜ヨ〜〜

思

ひ〜ヨ ねとろ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ
ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ

ねぬ

ヨ 句ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ

の 句〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ

墨の字 墨の字 墨の字〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ

墨ヨ 墨ヨ 墨ヨ二句陸ふ
墨ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ

墨ヨ 墨ヨ 墨ヨ二句陸ふ
墨ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ

墨ヨ 墨ヨ 墨ヨ二句陸ふ
墨ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ

晩ヨ 晩ヨ 夕時分二句
陸

暮果て 暮果て 暮ヨ〜ヨ
ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ

歌 歌 時分〜歌
ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ

くろき くろき
ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ

國花 國花 國花 コクとして又
ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ

海 海 海名ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ
ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ

蛍 蛍 蛍 蛍ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ
ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ

水鶏 水鶏 水鶏 水鶏ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ
ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ

蔵 蔵 蔵 蔵ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ
ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ

蝮 蝮 蝮 蝮ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ
ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ〜ヨ

熊 只一字にてくまと訓ずるのハ

仙人 道を学ひて仙人の位に成るなり

東 只二字にて中国の名なり

藪　只一ー樹又あるへし又
樹名も何も二百きちん
七句之之百四十もあるべし

宿　二旅ゴ一ー樹ゴ一ー樹ゴ
ヤドリ名書ゴ百人

屋　二ゴ屋二百
きちん

屋敷　家

北て　四阿　松や　竹やらやれやの家屋をくて公家屋
酒や　傍や　魚やおのやうなる酒ゴ付るやゴ見器
と家屋の書ゴ七句陸て四面もふ陸家四面ゴ書や
久て北四ハオクと書ゴてあてゴ七句陸書
とりやわゴ五句陸
書ゴ三句陸

屋形　一ー一ー船
又あへし

棠棣　山吹色
の衣又
あへし山の書ゴ家陸家よ山吹一ー一ー色の衣一テイタウと書
ゴ三て又あへし蘇ゴテイタウ付てもゴ者ゴ海四駅色ハ山
蘇て陸ゴ陸

松　まつ一ー一松一鶴一ゴうやくゴ四
山陸ゴ書あくに
ゴ二ゴ書ゴ一松ゴ一色ゴ一仙ゴ書ゴ
とりて四ゴ一松一ゴ書
松ゴ書ゴ書ゴ書ゴ
ゴ書ゴ書ゴ書ゴ書ゴ
ゴ書ゴ書ゴ書ゴ書ゴ

山繭　山蚕繭ゴ
人傳ゴ書ゴ

閑　ゴくき
七句ゴ

柳ゴ　ゴカ長カ赤柳ゴ
きちん一ー一ー柳

一ゴんたゴの四ゴ
一ー柳ゴゴんゴ又ゴ
四ゴきちん

矢　ゴくて二ゴ年
の一ゴ又あへし

矢ゴくゴ

流鶯鳥　鶯花ゴ書ゴ
七句ゴ書ゴ

山蛭　山蛭ゴ
神

年の年四ゴ
一ゴゴ書ゴ書ゴ陸ゴ書ゴ書ゴ書ゴ
陸ゴ書ゴ山ゴ書ゴ書ゴ書ゴ書ゴ

山ゴ

一ゴ書ゴ書ゴ書ゴ書ゴ
きゴゴ書ゴ

やとて　七句ゴ書ゴ
ゴ書ゴ四句ゴ

八重　一ー重
ゴ書ゴ

一ー一ー樹ゴ樹ゴ樹ゴ

付ても
ふ強
ぬ[illegible]れ
[illegible]

まごゝき 一たんやきこま
[illegible]

まきてりく 一たんわの名

[illegible]れ強 一 松[illegible]れ[illegible]
たゝ[illegible]

[illegible]れ
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]

武士 武者 武者 つはもの 物の具 雑人

巣 フクロウ 鷲の雑人

ふるすの松 一株の山どの

為 ヒ 一一五一一一一一五五一一一一五五一一一一五五

ふるき喪衣 喪之衰傷のふあまたあるよひろくなり
故八衰傷のおこりも用給ふ一今よりは
古桃衰と定むること七情六比語なり一世紀のことを学く
白なるべ衰なる人一一天下の人の配人の枕一仍を衰と定め
んや但衰傷なりり衰の白なるぬ西まあるべ前白
ふ門まて衰なる人一一呂手但せてもも衰傷なり

水 一名信子水之俗 ふ
まふふおそぐろ

為衣 一喪服
なり

ふるきそ
一名
二白

きらふ

源きに
二白

ふるもちなみるしる
一足波

伸まて根枝足
まと出之

卧
無分なり
まぬそ

ふるまふ
又ふ一

招
ふるまふ
又ふ一

ㅋ 木指 呂一楼抽ふあるるーーあるーーー
うてもも三白之萩の多ちなども二白きらふ又ーーま
呂ふるる
わと鳴ふ

沙
二うまるひ一一
きらふるもるひ

白一名ヒヨウと書ふて呂ーーーーー
月涙 呂之後 砂糖なと北沙るも面をきらふ

木末北秋 末の秋のとと楼抽ふ二白之
こまを秋もきらそに

九重 妙形
を鳴

ふ年四ーーこの主如とも北長和ふあるるあるまあ
妙の名名之妙ふ面を鳴ふこのうさふ北四ふ四勝ふ一又九重
城山主天なとーふ人ーーふ又ふ公四二ふことよみて呂し
重北ふ北とふと一ふ七白一ふうさなるふ二白之ーふおり
ふ付ても北ふ若うさあるふふ八
面と鳴ふ何まふ音ふふむ時ふ音之

意北山 四ふ北ふふ
なりされも

ふふ用本ーに意の
ふるるるるる之

四殿 廊之
ーーふ
長ふるあるに

子

一名獄のふ二重邪の影又ふ二ーふ
竹のふふ三白之ふ十又ふ一竹のふふ
ーふ又ーふ廿獄のふ七白きらふ
ふるるるるる白を鳴之

ふとふふむ
又ふ

一今ふ素ふ
むふと和ふちど深面をきらふ
ふふちふ面情ふ
意なり

浅家 浅面ふふ
居ふふふもあるに

乞食
ふ

人偽なり
面情なり

故怙 小の字
ふ鳴

小鷹狩 秋之猟狩ふ
狩ハ近のふを

ふとも
面を鳴

沙鮒 水四ふあるに
沙ふ七白鳴

檜現 非祇之古語
お約なり唯一

ふあるに

本末北西 ーーー時西陸西
ふふふふに

本末ふちる

ふ ふふ山沼きなど
四きなり

本末ふふ ふの字ふふふふ
せふふ二白之

柏
コスエ

ふ

ふふ本のふふ北ふ
せふふ二白なり

本末猿 本末ふふ狗楼
猿ふ二白之

苔猿
コケサル

楼抽ふ
湖に

苔北狭 楼抽ふふ
尺意ふあるに

苔莚 楼抽ふ狩ふ
ふあるに去

苔北衣 楼
情

むふふふ
なり意ふ

苔北戸 苔北庭楼抽
なり長ふ

苔北衣 楼
情

なり楼抽ふ
あるに

本末ふ北衣 楼抽意軒せふ
三白きらふ

衣 白去之
花の一

七夕の一衣
軒ふあるに

衣記 ふ之

狗笑ふ 小の字
小鳴

玄

年 二ツ〜一〜一〜ヨ
名所も二句之

ときらふ

出れひま 流るゝ水 巨燈 火吉語 燈ち形

昆布 くふんあゝ水四ツ海ぞ 米 植物 ふ語

天武之歌分まあゝ人まろ上句月ろ五句語

松 植物まあゝ樹の名 ん乃色 正花之植物 ん乃

松 植物まあゝ樹の名 ん乃杉 植物まあゝ樹の名 ことをいふ又杉ん

まもふ之植物れ古語 ん乃友 人倫まあゝ 自体コ一ろし ん乃

まろ用捨ま〜

約 ん乃ぐさとも生ぬまあゝ ん乃やゝ 茨ぐ ま海

うつぼやまく之ろの名〜ぬとを云

生ぬ病乃 ん乃ぐさ云

詞 ニヨれ又ヨ〜 試 コロミル ぐろ 廿百二句之

ヨれたの名ハ外之

詞の林 植物ま あゝ 言 コトバ 詞ま 菜の名 小語

二ヨれの名れ字 サまの二句なり 謡 コトワザ 詞ま れ字 二句なり 書 コト れを 言れ字 言二句 きらふ 言れ字 言れ字

言と 出之 こと わる 二ツと 小語 言れ字 言れ字 巴之一くさ 小語 言れ字 言れ字 も此句なり

こふの八重 ヨ ヨ〜

言の句 表秋の平句ま意の表秋の句付 て又平句れ表秋の句付 の〜れ

同事ま て意れ句ぐ ま ち も 言 恋 植物まあ〜れ 物れ も

ま ま 植物ま二句語今巻ま 海 コロ の名 ま句ま て ま二句ま之

雑之 呂意れ 詞なり ぐ ま ま 面 ま ま

て ま 時 コロ 年比 時 コロ ま ま

日ま二句時ま 比 トキ 時 トキ ま

し こ 日ま の名れ ま二句之 ま 付句ま 語 ま

ま 付句ま 語 ま 恋 コヒ の ま

こそ留り ま ま こ 千句なり 三之

一一二句云 留り ま 留り ま 留 云

工 江 呂二名ま二 植語 云

二句江ふなり 江ふなり

ま江意ち一の名 ま 海 エン る 一一一一 ま 結ふ 名

ま え江一ま 句ま ま 句ま 二年ま ま一

夫 エビス 人倫之 ま一一 狩 エキ 南 ジン 西 ジツ 北 ジツ 句 人倫

ま ま ま 一句語 ま 国れ名 州人倫 海 エビ 海の名 海の名

せ ま ま語一一 源ま 栄れ 男 ま ま

紙 紙たりとの ま 句 れ 西 ま れ と 人倫 ま ま 編 れ れ

列 ま 色 一一一 ま ぎて ま ま 表 句 書 瓦 殺 北 狩 又 ヨ 一 古 海

四 え ひ ま を 意 義 海 と 云

ひ ま て 倭 ま ま な り

い人倫 ま ま れ 古 海 四 表 ハ 衣 類 人倫

海 つ ま 宮 も 浪 滑 ま て の 〜 れ

の 実 ま

秋 之

(テ) 天乃字 四ニ天下ー井ー守あるなり

天よ ーまるーなる おわるこの句始

天ふ 水四ま あーに 天竺 てんぢく 水ま手綱

この始 天ふ 赤まこ 仮乃ち

ちて 赤ま ちて ーちて ちて ーちて ちて ーちて

もあり又ータのもの二句ばかり
やまのもの世せ二句なり
一杉の風くとも　雨
ゑ一一四の四ちおをきらふ今ま雨二又一天なぐ　雨
一名の付るーちーのあるこ句なり
雨ま　雨一村一ひまあ雨何も雨を　雨の雨ま
きらふひめさめ七句きらふ
雨五　雨　ひられ　雨一　雨ま雨を雨を雨ひ雨ひ雨ひ
一　雨ま二句今ま一五一ぢ一一杉ま一ぢ
ま俳の一又あり皆雨を雨ふ雨ひ　雨雨きひる
地の俳一金俳の一ぢを雨ぢ
杉の雨　杉さむき　杉風　一杉ま風を雨
杉ま杉ま杉ま杉ま杉ま杉ま杉ま杉ま杉ま杉ま
寒風寒なぐく杉の寒きと
一ま四二ぢりもぢ一
ま二句雨ふ　嵐　二又一山あるー今ま一ぢ一四ちまの
暑ともの　名なきハこの句ー三雨を雨ふ風俳
のんなぐく　名ま二句　名ま二句
ま　ぢ二句　嵐山　山ぢく　逢坂　山ぢく　逢の雨
きらふ　俳ま二句なり
ま二句　雨ひ雨　二一ま東　杉の雨　雨雨を雨ても風
ぢよふなぐく　杉雨ま杉雨ま杉雨ま杉雨ま杉雨
杉雨ま二句　芦や　雨一大ま雨　東雨ま　雨雨雨雨雨雨
雨雨雨雨雨雨

二物さび 弗さび などの類 一つ〻〻 淋しきうへ
河なほ 山でも 二つのあへ ーーーる 長と 陸ふ 一つ〻〻
今 二つ〻〻 又 結ぶ 哀 風 哀なる 山 河つ 〻〻 も 淋
きる も 面と 〻〻 今 一出 勝 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻
ま 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻
俗 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻

坂 呂二名 二 **沢** 呂二名 二 **左右** 左右 なり

桜田 乃 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻 〻〻

霧（キリ）

白云 きひは 一ろ〜〜〜

ゆ

ゆ

ゆ

酒 めくすのめくなどの めとのみてすをは
れ打まつてあつて
二百云前り めり 二百云前りも打云
もあれも めるやあ二百云

三 三月月 月七月もあるも 月月月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ヱ

繪（エ）一絵まくの系統あり絵巻物とも書きたり

繪巻（エマキ）巻物あり絵巻物とも書きたり

繪巻（エマキ）

繪巻（エマキ）

繪巻（エマキ）

ひろみてゆくさきの山のあるもなりもたるもあるもの
連ねられとく時のをきらふつしせくとの同形なり

雛の遊び　生形の時をはひなこひなゆいとなり雪
のしも同あり見もこひなひなの紙ひなの氏板
を前なり　姫　ひとつさの一　橘一なくらをさして一山
見もこあつし　一百合一　もれをこてあつし一年に一二人得
まあくまる一又一ゆとこなり
くくつは人得るあふた年ゆーと
なるまもむーのあるまもあるあつし
みあこ百きらふ　ひろうぎ　紙に紙代のことをなと
をまを百をこう法くあてこと
さくを百　ひとつ　雪の白なぐ
つ白を一

うく　常陸帯　紙に紙代　茅物　一みやあ
二百姫　一茅

の弘　旅に年ゆーーの名
のてこと板まあ法

ひえ飯　ひや酒　引板　板に板のあめまちまくまる
なる雑物ゆ二百なり兵二
引の雪板の雪まを百きらふなるとこはり　林　林なり
てく状の回なくてひことつふこくなく
白雑ろて　ひれふる　衣紋
ゆつく

ひきかれ　烏帽子の
親を云　百代雪　ひてふ

法　ひくこくこくこの百
兵兵修なと出　ひくとうく　赤ち琴く牛紫
けめこくこは

まびの
二百

ひろみてひなすき　なくくふ百生形
水白井ゆ二百きらふ

桂蔵稜など仕ふる白神
なくいあ桂くもきらてぞ

（モ）百衣　一百の雪
水四

雲旦澤弱なくくこるて今一百
ろ形まつくあくーこのあ百
森　兵一名ゆ一年ゆ兵こくとも
名ふまなりくも以上なり

武士　一一赤一赤一四赤
の四即ちる又こ

門松　天蓋なり
人得ゆ桂

家上川　の白ふ白
二百なり

藻くもむ雪　雑なり
水四

百の雪ゆ　常ゆを
きらふ

賜の年ぐき　桂四に桂に蔵
即ちくゆ名こ年ゆ一二つこ

紅
葉　一ふの一一一　一桂樹赤ゆ一一一の桂と
いふをちの門のてこなり桂四あくに一ゆを桂

紅葉ゆ　色ことのもこ百きらふ
ふ法年に白葉ふは
一まのも時を作みーーゆ楓の年のこ面をきらふスーーゆ
てこぞふ法時山の色七百きらふ古法四ーーを一本ゆあくに

り年　桂四に桂に蔵
桂四ゆあくに桂四ゆ二百こ

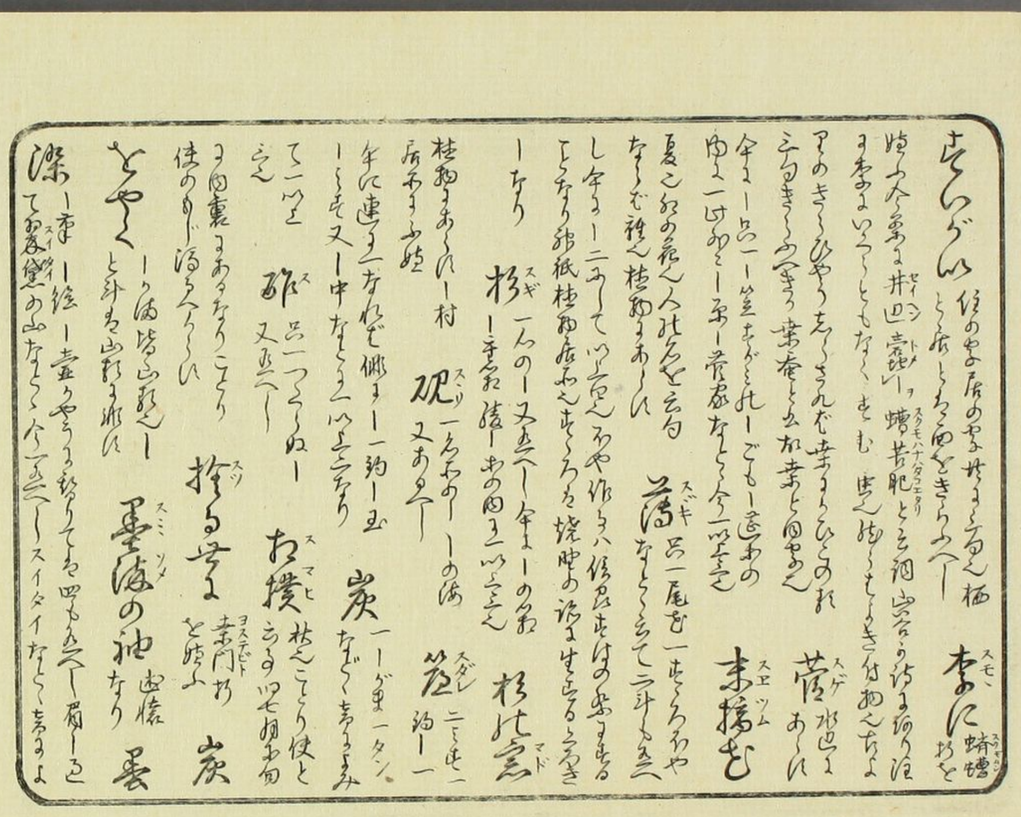
ゆ　桂四ゆあくに
桂四ゆ二百こ

久雪　年雑姫
ふこ

久雪ゆに
ふこ

絵の白 二白 姫 もり 杜 四人 りれのひ 泥 一白 きふふ

物思 物のもの思のあやまり 二白 姫 穢のあやまり 人偏 人偏 人偏



中村俊定文庫